遠野市監査委員告示第６号
平 成 ２ ４ 年 ６ 月 ４ 日

地方自治法第 199条第４項の規定に基づく工事監査を実施したので、同条第９項の規定により、その結果を別紙のとおり公表します。

遠野市監査委員　　佐　藤　サヨ子
遠野市監査委員　　佐々木　資　光
遠野市監査委員　　荒　川　栄　悦

平成24年度工事監査結果報告書（平成23年度施工分）

1　監査の期日及び対象

平成23年度に施工した市営建設工事について、書類監査は平成24年４月24日、25日、27日、５月７日、９日の５日間、現地監査は同年５月11日から21日までのうち延べ５日間、監査した。

期　日	工　　事　　名	請負金額	担当課（依頼先）
５月11日	遠野北小学校職員室・給食搬入口改修工事	31,466,400円	教務課(都市計画課)
	加守田章二陶房跡保全整備工事	15,378,300円	文化課(都市計画課)
	下水道災害復旧工事（踊鹿地区）	27,030,150円	水道事務所(下水道)
	遠野市消防庁舎新築工事（H22年度繰越分、現年度分）	993,374,550円	消防総務課(都市計画課)
５月15日	ＣＳデジタル化工事	32,238,150円	管理情報担当
	保健福祉センター増改築工事	44,271,150円	福祉課(都市計画課)
	宮守簡易水道配水管布設替（塚沢工区）工事	35,710,500円	水道事務所(上水道)
	米田地区コミュニティ消防センター新築工事	13,860,000円	保安施設課(都市計画課)
５月16日	市道東舘浜峠線道路改良工事（H22年度繰越分）	65,194,500円	都市計画課
	稲荷下地区団地公営住宅２期（第１工区）建設工事	86,139,900円	建設課(都市計画課)
	柏崎線道路改良舗装工事	29,805,300円	建設課
	上水道送配水管布設替（高室工区）工事	102,690,000円	水道事務所(上水道)
５月18日	市民会館大ホール舞台吊物設備改修工事	7,616,700円	市民協働課
	産直かみごう建設工事	96,722,850円	農業振興課(都市計画課)
５月21日	旧北日本銀行遠野支店改修工事	21,527,100円	商工観光課(都市計画課)
	遠野まちなか再生地区旧伊藤家復元工事（H22年度繰越分）	117,850,950円	
	遠野まちなか再生地区旧赤羽根蔵復元工事（H22年度繰越分）	53,416,650円	
	(仮称）観光交流センター歩道融雪整備工事	30,398,550円	建設課
	遠野まちなか再生地区（仮称）観光交流センター新築工事（H22年度繰越分）	186,153,450円	商工観光課(都市計画課)
	遠野まちなか再生地区（仮称）まちおこしセンター他改修工事（H22年度繰越分）	290,769,150円	

2　監査の内容

工事の施工に係る事務執行の状況及び現地確認

3　監査の手順

(1) 請負金額が 300 万円以上の工事 107 件の概要について担当課長等から資料の提出を求め、そのうち 20 件を監査対象とした。

(2) 事前審査として、監査対象工事に係る設計図書、契約書、施行状況その他の関係書類の提出を求めて書類監査を行い、疑義その他不明な事項については現地監査の前に担当課長等に説明を求めた。

(3) 現地において工事施工担当者から説明を聴取し、工事の施工状況を確認した。

4　監査の結果

工事に係る契約その他の関係書類については、おおむね適正に手続きが行われ、また、施工状況については、工事主管課等の工事監理のもと、設計図書、仕様書等に基づき必要な検査等も実施され、おおむね良好に施工されているものと認められた。

今後とも、工事の設計及び施工にあたっては、なお一層技術の向上を図るとともに、経済性、安全性に配慮し、かつ、契約書特記仕様書等に定めている事項の徹底を図り、請負者への指導も含め適正な施工管理を期待する。

なお、事務処理上の書類の不備及び軽微な事項については、その都度関係職員に対して口頭で指摘をし、書類の不備については改善がなされた。軽微な事項については改善を要請したので記述を省略する。

監査対象工事ごとの監査の結果については、次のとおりである。

○　遠野北小学校職員室・給食搬入口改修工事

特に問題点は見受けられなかった。

この工事は、子どもたちの安全確保を図るため、給食搬入口を裏側に変更した設計は評価できる。また、薬研沼の移設整備は、自然とのふれあいを大切にする教育環境づくりの一環であると認められる。

平成 20 年度から始まった校舎の大規模改修等の工事を含め今回の工事で、全ての工事が完成し児童の教育環境は整備されたということなので、今後は児童の学力向上をはじめ多方面での活躍を期待する。

○　加守田章二陶房跡保全整備工事

特に問題点は見受けられなかった。

この工事は、20 世紀陶芸界の鬼才加守田章二氏の遠野時代の陶房跡保全整備工事で、必要な工事であると認められる。

当時の雰囲気が醸し出されており、独創的な遠野時代の作品が生まれた背景や環境を偲ぶことができる。また、自由公開されており遠野から新たな文化発信できる施設として評価できる。

しかし、このままでは「点」の存在で終る懸念があり、博物館をはじめ他の文化施設等を含めた「線」の展開での有効活用策を望む。特に、作品は博物館に展示しているということであり、相乗効果で全国の陶芸ファン等が多く訪れ博物館の入館者が増加することを期待する。

○　下水道災害復旧工事（踊鹿地区）

特に問題点は見受けられなかった。

この工事は、平成23年３月11日発生の東日本大震災の復旧工事で、必要不可欠な工事であると認められる。

○　遠野市消防庁舎新築工事（H22年度繰越分、現年度分）

特に問題点は見受けられなかった。

この工事は、消防に従事する関係者の長年の計画が実現され、市民にとっても必要不可欠な工事であると認められる。

遠野市総合防災センターの拠点施設が整備され、設備的にも耐震性にとんだ免震構造をはじめ、高性能通信指令システム、東日本大震災記録等の展示コーナー、停電対策としの自家発電設備(72時間程度)、エコ対策としての太陽光パネルや雨水利用、煙体験訓練や消火訓練、救助訓練等ができる２棟の訓練棟等、県下でも最新の設備が施された施設となっている。

市民の生命と財産を守る安心安全の機能性の向上ばかりではなく、児童生徒を含め市民の見学や煙体験等もできる施設となっており、さらに、三陸地域地震災害後方支援拠点施設としての役割・機能も十分果たせる施設であり大いに評価できる。

なお、展示コーナーの活用については、「コーナーのための展示」にとどまらない趣向を凝らした展示を望む。

今後は、施設を活かした消防職員や消防団員の体力鍛錬や資質の向上を期待する。

○　ＣＳデジタル化工事

特に問題点は見受けられなかった。

この工事は、ＣＳ放送設備の耐用年数が経過し、安定したサービス提供のための設備更新であり、必要な工事であると認められる。

また、遠野テレビが提供する多機能デジタルセットトップボックスとの連携により、簡単に録画操作できるほか、劣化のない状態での番組保存も可能となり、様々な利用シーンに合わせた提供が可能となったということである。今後も市民サービスのため良質な自主番組の制作を望む。

○　保健福祉センター増改築工事

特に問題点は見受けられなかった。

この工事は、今まで手狭であった事務室等の増改築工事であり、必要な工事であると認められる。

相談室の整備や有事に対応できる機械警備の増設は評価できる。事務室も広く職場環境も良くなったので、仕事の能率向上を期待する。

また、この工事に合わせ「ふれあいホーム薬研淵」等にエアコンも設置され、市民が利用しやすい施設環境になったと認められる。

○　宮守簡易水道配水管布設替（塚沢工区）工事

特に問題点は見受けられなかった。

昭和56年に布設された配水管老朽化に伴う布設替え工事であり、費用対効果は望めないが、市民に安心安全な水道水を供給するため、必要不可欠な工事であると認

められる。

○　米田地区コミュニティ消防センター新築工事

特に問題点は見受けられなかった。

この工事は、宮守町ではじめての消防屯所の新築工事であり、住民の生命と財産を守る消防団活動の拠点施設であるコミュニティ消防センターの整備充実は、必要な工事であると認められる。

今後は、遠野市消防施設更新計画に基づき、宮守町内にある 15 棟の消防屯所を順次計画的に整備する予定であるということである。

消防団活動の活性化と地域防災力を強化し、安心安全な地域づくりに努力することを望む。

○　市道東舘浜峠線道路改良工事（H22 年度繰越分）

特に問題点は見受けられなかった。

この工事は、遠野市斎場へのアクセス道路であり、必要な工事であると認められる。

この道路改良工事に伴い、綿密な連携(都市計画課・下水道担当・上水道担当)のもとに、三つの工事が実施されており、他の参考となる組織の横の連携が図られた工事事例で、経済効果は十分にあり、施工方法も工夫が見られ経費の削減にもつながっており、評価できる工事である。

○　稲荷下地区団地公営住宅２期（第１工区）建設工事

特に問題点は見受けられなかった。

この工事は、平成 23 年度 11 棟(15 戸)建設した稲荷下地区団地公営住宅建設工事の標準タイプの１棟(２戸)で、遠野の風景・景観にマッチした癒される住宅であり、必要な工事であると認められる。

公営住宅整備にあたっては、毎年少しずつ工夫が見られ、地域との融和も大切にしている姿勢が感じられ、市民とってより良い公営住宅になってきていると認められる。

稲荷下地区団地には、公営住宅スットク総合活用計画に基づき、平成 24 年度 5 棟整備予定で完了ということである。

○　柏崎線道路改良舗装工事

特に問題点は見受けられなかった。

この工事は、生活に身近な道づくり事業計画に登載して５年、住民の長年の悲願がかなった改良舗装工事で、必要な工事であると認められる。

かごマット工法による護岸工事は、自然との融和が可能で、環境と調和がとれた遠野に相応しい工法であると認められる。

冬期間工事のため、舗装の一部に亀裂等が見受けられるが、暖かくなって地盤が落ち着いてから手直し工事を実施するということである。

○　上水道送配水管布設替（高室工区）工事

特に問題点は見受けられなかった。

この工事は、平成 23 年３月 11 日発生の東日本大震災により市道須崎高室線が被災し、道路災害復旧事業により復旧することから、市道内に埋設している送水管、配水管もダメージを受けていることを想定した布設替え工事で、市民のライフラインを守る必要不可欠な工事であると認められる。

この工事は、建設課と連携して工事が進められており、経済性・効率性は十分あり、また、市内の管工事業者の不足技術をカバーするため、将来に備えた技術者の養成等を念頭においた取り組み工事でもあり評価できる。

なお、今後も市民に対し、安全でおいしい水の安定供給と水道事業に対する理解と協力を得るため、「遠野市水道ビジョン」のＰＲを望む。

○　市民会館大ホール舞台吊物設備改修工事

特に問題点は見受けられなかった。

この工事は、吊物設備の老朽化と昇降バトンを電動から手動に使い勝手を良くするための改修工事であり、必要な工事であると認められる。

職員が扱いやすい方法に切替えて更新された点は評価できる。

今回の工事対象ではないが、耐震診断に基づく市民センター改修工事については、市民に施設整備の必要性を説明し、理解と協力を得られるような努力を望む。

また、大ホールの中通路他の手摺は、白い塗装がボロボロに剥がれた状態になっており、施設が老朽化した印象を来場者に与えるので、部分補修の対策を望む。

○　産直かみごう建設工事

特に問題点は見受けられなかった。

この工事は、長年の地元の悲願が形となって実現された、地元の農家の顔が見える野菜や加工品等を販売する産直「夢産直かみごう」であり、必要な工事であると認められる。

産直内には、ジェラート工房やレストランの他に体験農場もあり、子どもから大人まで楽しめる交流拠点施設となっており、地域住民の農家所得向上につながり、農業後継者が増加することを期待する。

冬期間工事のため、外構工事で舗装に凹凸が見受けられるが、暖かくなって地盤が落ち着いてから手直し工事を実施するということである。

なお、喫煙場所については、受動喫煙を防止するため利用者から離れた場所に移動することを望む。

平成 24 年４月 29 日から５月 13 日までの連休を挟んだ入込数は、12,800 人、約 10,000 千円の売上があったということで、今後の組合員の所得向上を期待する。

○　旧北日本銀行遠野支店改修工事

特に問題点は見受けられなかった。

この改修工事は、遠野の文化の調査・研究や被災地復興支援に取り組む遠野文化研究センターの活動拠点として、必要な工事であると認められる。

遠野物語研究所も同居しており、官民一体となった調査研究施設として、また、

市民の文化交流の場として、さらなる遠野文化の掘り起こしや文化の情報発信を期待する。

なお、一般市民にとって理解度は少ないと思うので、遠野文化研究センター設置のコンセプトをより具体的に市民にアピールし、上一日市及び中心市街地活性化の拠点施設として機能発揮することを期待する。

○　遠野まちなか再生地区旧伊藤家・旧赤羽根蔵復元工事（H22 年度繰越分）

特に問題点は見受けられなかった。

この工事は、江戸時代に建築された旧伊藤家の住宅兼店舗と旧赤羽根蔵を移転改築し、「お食事処伊藤家」と「物産館赤羽根蔵」として、中心市街地活性化事業で整備されており、必要な工事であると認められる。

江戸時代後期の遠野の街並みや文化を伝える、歴史的に価値の高い重要な建築物を観光振興に利活用して、遠野の魅力を伝えており復元工事は評価できる。

また、旧伊藤家と旧赤羽根蔵は屋根付き通路で結ばれており、観光客等がゆったりと遠野の食や物産を満喫できる拠点として、観光客等やリピーターを含め賑わうことを期待する。

今後は、平成 24 年度にとおの昔話村の改修工事が予定されており、完成後は中心市街地観光の拠点施設として、まちなか観光の事業展開と中心市街地活性化及び経済効果が期待される。

○　（仮称）観光交流センター歩道融雪整備工事

特に問題点は見受けられなかった。

遠野の玄関口にある観光交流センター周辺の歩道融雪整備工事は、市民はじめ観光客等冬期間の除排雪対策として、必要な工事であると認められる。

電気料金の負担軽減を図るためタイマー設置をして、時間差による融雪に努めており評価できる。

○　遠野まちなか再生地区（仮称）観光交流センター新築工事（H22 年度繰越分）

特に問題点は見受けられなかった。

この工事は、遠野の表玄関にふさわしい火の見櫓のある町家風の建物と蔵で構成された、新たな遠野市観光協会の活動拠点・観光交流センター「旅の蔵遠野」として整備されており、必要な工事であると認められる。

施設に重厚感があり、シャワー室等も完備された利便性の高い施設となっており、観光客を始め市民から喜ばれる施設であり評価できる。

今年の連休期間中のお土産品等の販売額も上がっているということであり、経済効果は十分あると認められる。

遠野の表玄関の拠点として、遠野の情報発信や観光客等交流人口の拡大で、駅前や街中の賑やかさを含め市内の観光施設等に活気が戻ることを期待する。

○　遠野まちなか再生地区（仮称）まちおこしセンター他改修工事（H22 年度繰越分）

特に問題点は見受けられなかった。

この工事は、まちおこしセンター「あすもあ遠野」として旧ＪＡビルを活用し明治時代の西洋建築風に改修整備されており、遠野の表玄関口にふさわしい必要な工事であると認められる。

遠野まちなか再生地区整備も順調に進み、駅前という立地の良さからも、市産業振興部と遠野商工会等関係機関団体が連携し、観光や商業等のワンストップサービスで、観光客等の誘客や雇用の確保を含め、産業振興と中心市街地活性化及びまちおこしを期待する。